



▲挨拶を述べる鶴田会長

2024年度事業活動の力点

- 1 エネルギー・放射線に関する正確かつ効果的な情報発信
- 2 エネルギー・放射線に関する次世代層教育の継続
- 3 幅広い年代の多様な方々に向けた情報発信と双方向コミュニケーション活動の充実
- 4 福島県への復興支援に向けた活動の充実

※下線…昨年度からの変更点

次世代層教育へのご意見・ご質問が多く挙げられた他、「福島の復興を後押しする『Fukuまる』の発行は有意義と考える。今



▲吉崎氏による記念講演会

記念講演会を開催

年度の計画を教えてください」などの貴重なご意見をいただきました。

総会后、双日総合研究所チーフエコノミストの吉崎達彦氏を講師にお招きし、「米大統領選挙の行方とエネルギー地政学」をテーマにご講演いただきました。講演では、近年の世界情勢や2024年に予定されている各国の動き、世界経済の中で見る日本の経済状況についてご説明いただきました。

東北エネルギー懇談会

2024年度 定時総会・記念講演会を開催

当会は、5月28日、仙台市内において、2024年度定時総会・記念講演会を開催しました。当日は、240名の会員の皆さまに出席いただきました。

定時総会について

挨拶の冒頭、鶴田真孝会長は今年元日に発生した令和6年能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。その後、緊迫感を増す国際情勢やドバイで開催されたCOP28、GX推進について言及し、エネルギー政策の大前提であるS(安全性)+3E(安定供給、経済効率性、環境適合)を確実に構築していく必要があること、そして当会が今年65周年を迎えることに触れ、エネルギーミックスの重要性を広く発信する当会の役割が今まで以上に重要になるとの認識を示しました。

議事では事務局より2023年度事業・決算報告、2024年度事業計画・予算および役員を選任について説明し、いずれも提案通り承認されました。質疑応答では、
した。そして、2024年11月に予定されている米大統領選挙の結果が世界や日本に与える影響や、気候変動・GX推進に関する日米の試みについて言及し、時代の要請であるGXやDXを推進するためにはエネルギー問題について再考する必要があること、また気候変動問題等の政策については世界情勢に流されずブレない姿勢で取り組むことが重要との認識を示されました。
講演終了後には、「日本に新設される半導体工場がエネルギー供給に及ぼす影響を知りたい」「アメリカの経済人は米大統領選挙をどう見ているのか」といった質問が挙がるなど、活発な質疑応答がなされました。



(株)双日総合研究所
チーフエコノミスト
吉崎 達彦 氏

富山県出身、一橋大学社会学部卒業。1984年に日商岩井(現双日)㈱入社。米ブルッキングス研究所客員研究員、経済同友会代表幹事秘書・調査役を経て、2004年(株)双日総合研究所副所長のち現職に就任。2014年に第14回「正論」新風賞受賞。